

6

## 宇城市総合カレンダー

総合カレンダーには、ごみの出し方の基本的なルールが掲載されています。特に次の3点をしっかり守ってごみを出しましょう。

- ・可燃ごみや粗大ごみは、収集日の指定の時間までに指定の場所に出す
- ・資源ごみや不燃ごみは分別収集の対象 総合カレンダーで分別方法や収集日程を確認
- ・分別収集された資源ごみは再び原料として使われるので、きれいに洗って出す



8

## クリーンセンターへの持ち込み基準

家庭からでるごみは、各地区の収集場に出すことが基本ですが、多量に出た剪定くず、大掃除で出た粗大ごみなど、個人での持ち込みにも対応しています(有料)。

ただし、枝などのサイズは長さ1m以内、太さ10cm以内で出してください。直接持ち込む場合は、総合カレンダーに添付の「搬入証」に必要事項を記入し持参してください。直接搬入では指定袋に入れる必要はありませんが、ごみの種類ごとに分別をお願いします。

### 市内一斉美化運動を中止します

宇城市では毎年6月の環境月間にあわせ、市内一斉美化運動を行っていますが、今年は中止します。

### INTERVIEW

## 未来の環境を考え、意識を高めよう

地域をきれいにしたいという思いで、事故防止や飛散防止、時節柄、感染症にも気を付けながら作業しています。時には違反ごみもあります。外から見えるものには対応できますが、中に隠れていると難しいです。生ごみの水分量を減らしたりきちんと分別することはごみの減量につながり、みんなにメリットがあります。市民一人一人の、分別に対する意識が高くなっていけばいいですね。

株式会社 松清  
上村 勇介さん



株式会社 松清  
清水 祐二さん

5

## ごみサク

ごみの分別に迷ったときにごみの出し方を検索できる分別サイト『ごみサク』。チャットボットとチャット形式でごみ分別を確認することもできます。



7

## ごみステーション整備費補助

市内のごみステーションにはネットや金属製のごみかごなどさまざまな方式がありますが、カラスや猫などの動物に狙われ、袋の中身が散乱することもあり、苦情も寄せられています。

市では、行政区によるごみステーションの整備費用を補助し、地域の環境美化を支援しています。補助を希望する場合は、整備したい場所の行政区長を通じて申請してください。

補助率 2分の1 上限 3万円

### 分別は未来のために

ごみの分別には手間がかかりますが、子どもたちの未来、宇城市の未来のために、ご協力をお願いします。  
☎ 衛生環境課 ☎32-1598

1

## マイバッグ

7月からレジ袋が有料化されます。皆さんも、この機会にライフスタイルを見つめ直し、エコバッグを持ち歩くなど、できることから工夫をしてみましょう。



経済産業省  
ホームページ



2

## 不燃物を入れないで

可燃物の袋に不燃物を入れていると「ルール違反です」と書かれた紙が貼られ、回収されません。針金や空き缶などの不燃物は焼却するときに燃え残り、コンベアなどに挟まって機械を止めてしまうことがあるからです。



クリーンセンターではごみを900~950℃という高温で燃やしますが、不燃物は燃え残ってしまいます。

不燃物は、決まった分別収集の日に、きちんと分別して出してください。

4

## コンポスター補助金

可燃ごみに水分が多く含まれると、悪臭が発生するなど困ることがたくさんあります。

- ・ごみ収集車(パッカー車)で収集するときに周囲に水分が飛び散ってしまう
- ・クリーンセンターで焼却するときに余分な時間や燃料が必要になる
- ・コンポスターで処理した生ゴミは堆肥として使うこともできます。ごみ減量のためにコンポストに取り組んでみませんか。

### 生ごみ処理容器等購入補助金

補助率 購入費用の2分の1  
上限額 3,000円~20,000円  
個数 1世帯1個または2個  
上限額や個数は種類によります。



市ホームページ

3

## フードロス・ゼロプロジェクト



市では2018年から食品ロス削減を目指す「フードロス・ゼロプロジェクト」を展開しています。家庭ごみの約4割を占める食品ロス。家計のコストとごみの減量を目的に「わが家のMOTTAINAIノート」を作成しました。これは、捨てたものや量などを書き込み活用するもの。使わない食材を寄付するフードドライブとともに、取り組んでみましょう。市ホームページからダウンロードできます。

このノートを1カ月間続けた人には、エコバッグをプレゼント



ごみについて考える1つは  
未来を考える1つは

市民一人一人の生活が、宇城市の未来の環境をつくりま  
す。ごみを減らす、リサイクルをする、といった活動は  
SDGs(持続可能な開発目標)の達成にもつながります。